

三重大大学の基本的な目標

三重大大学の力を世界へ

大学と地域の調和

大学と自然の調和

研究と教育の調和

基本理念	三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学 地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。
目標 教育	幅広い教養を身につけるとともに高度な専門知識や技術を有し、国際的な視野を持ち、社会のイノベーションを推進できる人材を育成します。
研究	世界に貢献する特色ある先端研究、地域に根ざしたオンリーワン研究、社会課題の解決につながる応用研究、さらに未来を拓く多様な基礎研究に取り組み、国際性と高い倫理性を備えた研究活動を行います。
社会貢献	豊かで健康な持続可能未来社会の実現を目指し、産学官民の連携を深め、地域との協働・共創の拠点として諸課題の解決に取り組み、それら成果を社会実装することで、社会の発展と活性化に貢献します。

附属中学校 第31次 研究テーマ

「社会の変化に対応できる生徒の育成」

各教科等

本校は、現状の教育課題を反映した研究テーマに沿って研究をすすめておりますが、その研究の基盤にあるのは、各教科の授業です。研究テーマは変われど、生徒と教員で、よりよい授業をつくっていくという姿勢は変わりません。現在も各教科等で資質・能力が育成できる授業開発・実践に取り組んでいます。この各教科等の内容と STEP を結びつけるための計画表を作成し、どの時期にどの教科がどのような授業をしているかを明確にしています。各教科の横断的カリキュラムを実践することで、附属中が目指す「根拠」「じっくり・いろいろ」「アイデア」「問題発見」「問題解決」「振り返り」「協働」「伝達・発信」の8つの資質・能力が高まっていくと考えています。

また STEP で育成された資質・能力が各教科に発揮されていくのではないかとこの点について検証し、よりよい授業、STEPにつなげていきたいと考えています。

総合的な学習の時間

「STEP」という SDGs を核とした探求的な学習に取り組んでいます。STEP という名称には、次のふたつの意味が込められています。

① Save The Earth Projects(地球を救うプロジェクト)の意味。②探求学習の課程をHop(気づき、発想する)、Step(計画を立てる)、Jump(実行、行動する)ととらえ、Jumpに向けて、自分たちに何ができるかを考える授業にしたいという思い。

〈STEPの取組〉

・学年をこえた班編成

学年にこだわらず、問題意識の持ち方や研究の方向性によって班を編成し、協力して活動を進める。

・探求活動

テーマに沿って個人やグループで考えたり、調査したりして問題解決に向けて活動する。

・企業や大学連携

企業や大学等の専門家から指導を受ける。

・テーマ披露会、中間発表会、最終発表会

保護者や専門家、教員に向けて成果を発表する。



附属中学校 学校経営方針・学校教育ビジョン

附属学校園が目指すもの

教育目標

『主体的、創造的に生き抜く力をもった心豊かな子どもを育てる』

めざす子ども像

- ・積極的に学び続け社会の中で知識を活用し自らの考えを豊かに表現できる子ども
- ・仲間を大切にし互いに高め合うことができる子ども
- ・健康で活力ある学校生活を過ごすことができる子ども

附属中学校教育目標 『豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひらく生徒の育成』

めざす学校像

- ・生徒自らの学びを表現し合う学校
- ・生徒一人ひとりが大切にされ、心通うかわりのある学校
- ・内にも外にも開かれ、信頼される学校

めざす生徒像

- ・積極的に学び続け、豊かに表現しようとする生徒
- ・自他の人権を大切に、仲間とともに高め合う生徒
- ・健康・安全に留意し、心身共に健やかに成長する生徒

めざす教師像

- ・自らを磨き、実践し、行動で示す教師
- ・愛情を持ち、生徒と向き合い、生徒の主体性を引き出す教師
- ・同僚性を持ち、共に高め合う教師

具体的な行動計画

■ 生徒一人ひとりの学びを大切にした授業づくり

- 1 授業公開を積極的に進める。(1人年3回以上)
- 2 実践例や研究授業の振り返りを教科部会を中心に行い、今次研究を推進する。また、公開研究会や他校との連携などを通して本校の取り組みを積極的に発信する。
- 3 一人一台タブレットの効果的な活用を研究し、ICT教育を積極的に推進する。
- 4 学部との連携を積極的に進める。(連携授業、教育実習、研究協力等)
- 5 専門性や力量を高める研修会やベンチマーキングに積極的に参加するとともに、その還元に努め、OJTの活性化を図る。(他附属等各種研究会への参加、学部との連携)
- 6 シラバスの活用・ノート指導等により学習習慣の定着や自律して学ぶ態度を養う。

■ 豊かな関わりを育み、豊かな心を育てる教育活動の推進

- 1 「自ら動く!附中生」を活動方針として掲げ、生徒会活動を支援し自治の力を養い、他との交流に積極的に参加する。(ユネスコ、リーダー交流、他校との交流など)
- 2 挨拶の励行と、清掃、朝読、部活動のとりかかりに重点を置き、教師集団が共通理解のもと率先して取り組む。
- 3 月2回程度ノー会議デーを設け、生徒会活動をはじめ、生徒の自主的な活動に充て、生徒の活動を支援することを通して、教師と生徒の信頼関係をより深める。
- 4 人権教育を基盤とした集団づくりの力量を高めるとともに、道徳の時間の指導の在り方について研究を深める。(橋北中校区人権学習実践交流会への参加、道徳の時間の確保)
- 5 防災教育の推進や危機管理体制、環境の整備に努める。

■ 働き方改革の推進、学校経営の改革

- 1 働き方改革を推進し、総勤務時間の縮減とともに、職場の環境整備に努める。
①定時退校日(毎週水曜日)、②部活動休養日の遵守(週3日、うち1日は土曜日または日曜日)、③総時間勤務の縮減、④休暇取得日数(1人年6日以上)、⑤放課後会議90分以内終了(70%)、⑥意識改革
- 2 めざす学校像の実現に向けて、教職員の対話を積極的にもち、自校のミッションを共有すると共に、学年、学級での具体化につなげる。
- 3 一人一台パソコンを活用し、ガルーンや共有ファイル等による情報共有(ペーパーレス化)、反省・引き継ぎ等の効率化を進める。
- 4 各分掌からの提案を企画委員会に提出し、事前の検討を加えることや、定型の業務についてのルーティーン化、資料の事前配布などで会議の効率化を図る。また、それぞれの取り組みにおけるPDCAサイクルの積極的な運用に取り組む。
- 5 部活動に関する国や県の動向を注視しつつ、当面は部活動指導員の積極的な活用を進め、顧問の負担軽減を図る。

■ 学部や保護者と進める開かれた学校づくり

- 1 学校自己評価とともに学校関係者評価委員による学校評価を実施する。
- 2 メール配信の継続や学校だよりの発行等、積極的な情報発信に努める。
- 3 ホームページの更新を継続的にを行い、充実に努める。
- 4 育友会活動や学生ボランティアの活用等、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について育友会役員とともに推進を図る。
- 5 四附属一貫教育のカリキュラムを実践検証し改善につなげる。